

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

お茶の水女子大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、2項目が「非常に優れている」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「非常に優れている」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標「学士課程と大学院課程との連携教育の実施による専門学力の向上と進学意欲の上昇を図る」について、「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択された3件のプログラム及び大学院教育改革支援プログラムに採択された事業を通じた大学院博士前期・後期課程の一貫指導体制や学際領域の副専攻制度を導入し、また、平成19年度の大学院改組により前期・後期課程の一貫した教育プログラムと学部・大学院が一体となった教育運営を行っていることは、進学意欲と専門学力の向上につながる取組を行っている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「大学院の組織の改革を検討する」について、平成19年度より大学院を改組し、3学部1研究科とセンターに所属していた専任教員（大学院担当者）をすべて新大学院「人間文化創成科学研究科」の「研究院」に一元的に所属させることは、学

部・大学院間及び大学院専攻間の連携の強化を意欲的に行っている点で、特色ある取組と判断される。

- 中期計画「女性のライフスタイル（妊娠・出産・介護等）に即応した多様な研究形態を確立し、研究支援を図る」について、「いずみナーサリー」の開設、育児支援奨学金、授業料免除等多様な研究支援を行っていることは、様々なライフスタイルの女性が学べるような就学環境の具体的改善策としてユニークな取組であり、お茶の水女子大学の役割・理念と符合している点で、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「英語教育において、習熟度別クラス編成をし、効果を上げうるようにクラスサイズの少人数化を図る」について、TOEIC のスコアに基づく習熟度別クラス編成と 30 名規模の少人数クラス化を実現し、それに対する学生の満足度も高いことは、教育効果を向上させている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「附属高等学校の生徒に対して、（中略）進学を認定するシステムの開発とその設置について検討する」について、高大連携 7 年間特別教育プログラムにおける大学・高等学校教員間の連携による授業科目「教養基礎」「選択基礎」の開設、大学授業科目「コア科目」や「基礎ゼミ」を高等学校在学からの受講を可能とする施策、及び、「選択基礎」受講者を対象とした高大連携特別選抜（指定校推薦）等を実施していることは、高大連携という特筆に値する先駆的取組を行っている点で、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期計画「教育推進室、総合評価室及び総務室と連携して、教職員の配置を改善するシステムを構築する」について、今後 5 年間の大学戦略に基づいた人員配置を目指し、専任教員の「研究院」への一元的所属、「教員活動状況データベース」の開発、学長手持ちポストの設定等を行ったことは、先進的な取組である点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「留学生センター等で、学外と連携して共同教育を実施する可能性について検討を行う」について、同徳女子大学（韓国）との異文化理解プログラム「日韓大学生交流セミナー」、ヴァッサー大学（米国）との留学生共同授業、渡日前留学生に対する遠隔教育等を行っていることは、海外大学との先駆的な教育交流という点で特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」であることから判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期計画「IT 教室を開放するとともに、図書室・自習室等を整備し、自習を支援する」について、IT 機器を配置した教室等の機器整備と開放を順次実施しているほか、図書館でのラーニング・コモンスの開放、新入生全員へのノートパソコン 1 年間貸与等に取り組み、学生の満足度も上昇していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「留学生チューター制度の充実を図る」について、留学生相談室に相談室

チューターを置くとともに、個人チューターも配備して二元的な相談体制を実施していることは、ユニークな支援方策を具体化しているという点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「就職支援体制を整備」及び「女性の多様な生涯を展開したキャリア教育充実」としていることについて、現代的教育ニーズ取組支援プログラム「科学的思考力と表現力で築く『私の履歴書』」や「育児支援奨学金」に代表されるように、女性のライフスタイルを見通したキャリア形成や就学支援を行っていることは、ユニークで先進的な取組という点で、特色があると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「非常に優れている」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「非常に優れている」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、2項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が非常に優れている」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標で「研究活動を活発化して拠点化をはかる」としていることについて、21世紀 COE プログラムに2件のプログラム及びグローバル COE プログラムに1件のプログラムが採択されたほか、科学技術振興調整費による若手教員育成事業や、「魅力ある大学院教育」イニシアティブによる3件のプログラムが採択されており、その他、特別教育研究経費や現代的教育ニーズ取組支援プログラム等の数多くの競争的資金を獲得し活発な研究活動が行われていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「他の女性教育機関との連携において、より広域的な伝達を心掛け、女性の社会進出その他の資源として広く共用に供する」及び「教育職員の再教育の機会を通じて、直接的な社会的還元を図る」としていることについて、研究成果の社会への還元に関する具体的方策について、五女子大学コンソーシアム（津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学、お茶の水女子大学）の支援により毎年アフガニスタンから多くの女性教員が研修のため来日する取組を実施し、また、社会人教育・教育職員の再教育活動でのセミナー・研修・講座とその参加者が年々増加していることは、人材育成、国際交流及び社会還元を高い水準で推進しているという点で、優れていると判断される。
- 中期計画「アジア地域の女性研究者との交流の緊密化を図る」について、「アジア女性研究者支援奨学金」や「120周年記念桜蔭会国際交流奨励賞」により外国人教員の招聘等を行っていることは、先駆的な取組であるという点で優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「本学で特色となりうる分野を新たな重点領域として検討する」としていることについて、実績が蓄積された分野の研究を精力的に推進するとともに、お茶の水女子大学で特色となりうる新たな研究領域を開拓し、多様で数多くの競争的資金を獲得していることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標(5項目)のうち、3項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が非常に優れている」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「研究の活性化のため、広く学内外に人材を求めて（中略）任期付き研究者として研究センター・研究プロジェクト・大学院専攻等に配置する」について、各種任期付教員の採用と研究・教育拠点への戦略的配置が実現し、任期付教員の採用が増えていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「学内研究のインセンティブを考慮し、公募による学内科研を設け、研究費の重点配分を行う」としていることについて、21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラム、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ等の競争的資金を獲得し、これらの経費により若手教員への研究支援を強化していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「女性研究者の研究支援に対する具体的方策」について、女性教員を支援するために常勤の特別研究員制度を独自に発足させ、多数の研究者を雇用し年々増加していることは、制度面での先駆性のある取組であるという点で、優れていると判断される。
- 中期計画「第三者を加えて分野別評価を実施する」について、全教員が単年度ごとの活動報告を提出し、また、3年目終了時での学外評価委員による評価を実施し、その結果をフィードバックしていることは高い質の個人評価・部局別評価システムを構築し実践しているという点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期目標「特に女性のライフスタイルに即した研究環境や研究体制を整備する」について、女性教員や女性リーダーの育成に女性のライフスタイルを考慮した様々な支援体制により、研究費の支援、研究補助者の配置、日常業務の軽減、保育所の整備、9時～17時勤務体制等を構築していることは、特色ある取組であると判断される。

（Ⅲ）その他の目標

（1）社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

（判断理由） 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「非常に優れている」であることから判断した。

（参考）

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「非常に優れている」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、2項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が非常に優れている」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「現職教員対象の研修を行う」について、幼児教育や理科教育等の社会的ニーズの高い分野において、多くの社会人・現職教員の再教育事業によるキャリアアップに貢献していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「海外各地の大学との交流協定締結を促進し、研究者及び学生の交流を活性化する」について、交流協定校の拡大を図り、海外の協定校との連携の緊密化及び教員・学生による相互の積極的な交流を行い、共同授業を実践していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「途上国女子教育支援を強化充実する」について、五女子大学コンソーシアム（津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学、お茶の水女子大学）において、女子大学の伝統と蓄積を活用した途上国支援を推進するとともに、開発途上国への教育支援・留学生支援においては先駆的取組を多様に実践し、教材の開発や多くの研修者を受け入れていることは、優れていると判断される。